



2015 **1** January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

初春のお祝いに何処へ行こう。  
傍らに寝転んだアンタが顔を覗き込む。  
そうだな、この見事な双丘を拝もうか。

ふざけて手を滑らせた俺に、アンタは笑って耳を撫でた。  
耳が弱いと知っていて、初な少女のように弄ぶ。

悪い女だな。そう呟くと心外だと告げる唇が弧を描く。  
なんて平凡で——満たされた時間。

ああ、俺はまだ夢を見ているんじゃないか。

こんな幸せを他の誰でもない、この俺が享受しているなんて。

あの森で友が救われるのを待っていただけの俺には勿体ない女——  
なんて、面と向かっては言えないけどな。

先程の問いの答えだがな、何処にも行かなくていいなんて言ったら  
アンタは笑うか？

アンタがいれば俺は毎日めでたいんだから。

Illustration : 黒蝶 SSS : 雅和